

令和4年度全国学力・学習状況調査  
**問題別調査結果 [国語]**  
 江戸川区立松本小学校一児童

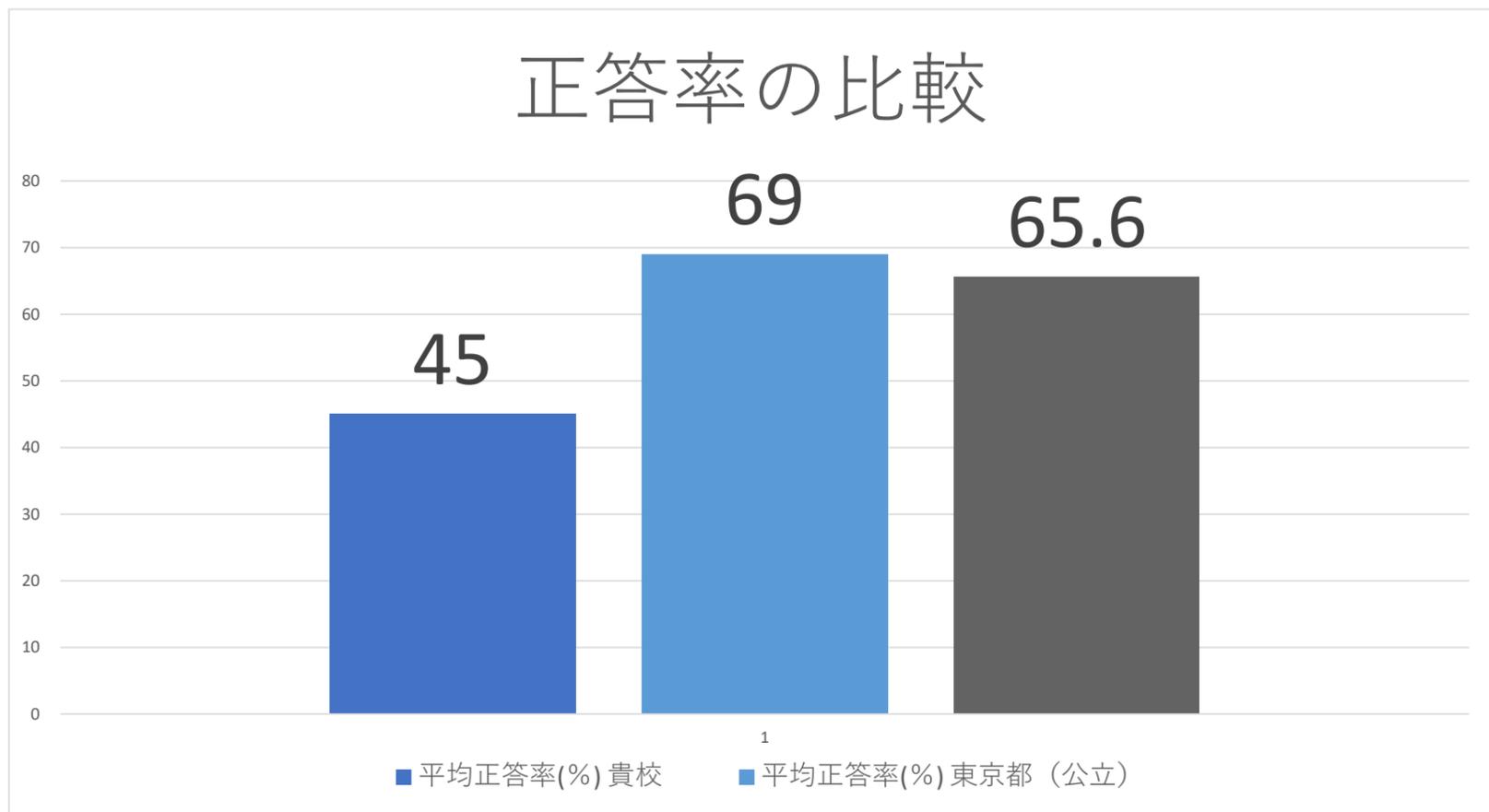
・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

**集計結果**

対象児童数		江戸川区立松本小学校	東京都（公立）	全国（公立）
		37	92,237	965,308

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		14	45	69	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	50.3	71.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	59.5	75.5
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	51.4	69.1
		B 書くこと	2	27.0	51.3
C 読むこと		4	40.5	72.1	
評価の観点	知識・技能	6	51.8	72.0	
	思考・判断・表現	8	39.9	66.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	53.4	75.3	
	短答式	3	42.3	65.7	
	記述式	3	25.2	53.9	



江戸川区立松本小学校一児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。  
 ※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

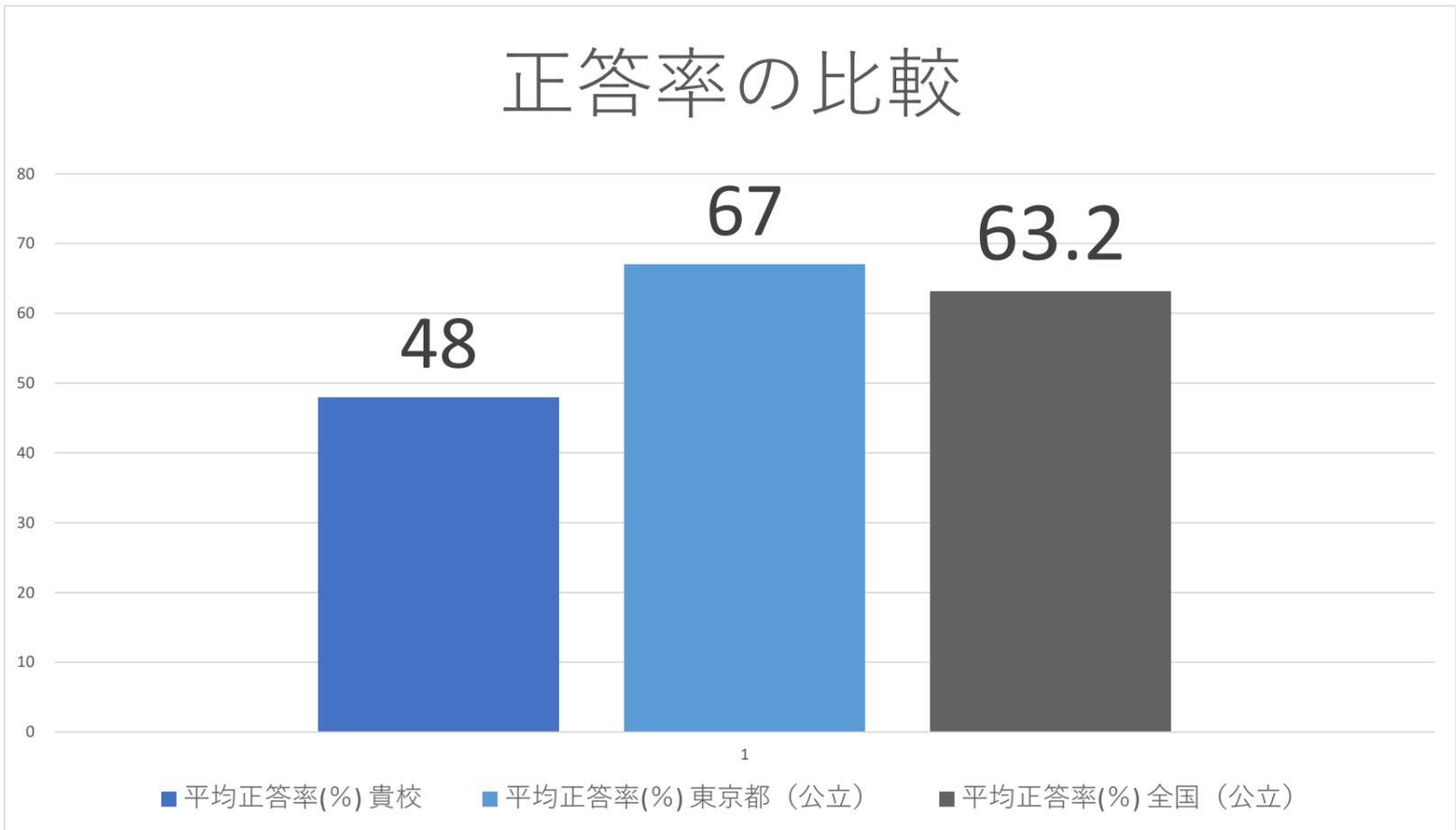
**集計結果**

対象児童数		江戸川区立松本小学校	東京都（公立）	全国（公立）
		37	92,266	965,431

分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		16	48	67	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	54.1	72.1	69.8
	B 図形	4	50.0	68.6	64.0
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	39.9	57.6	51.3
	D データの活用	3	50.5	72.4	68.7
評価の観点	知識・技能	9	58.0	72.4	68.2
	思考・判断・表現	7	36.3	60.5	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	40.5	56.7	51.8
	短答式	6	66.2	80.6	76.5

記述式	4	33.8	62.7	60.2
-----	---	------	------	------



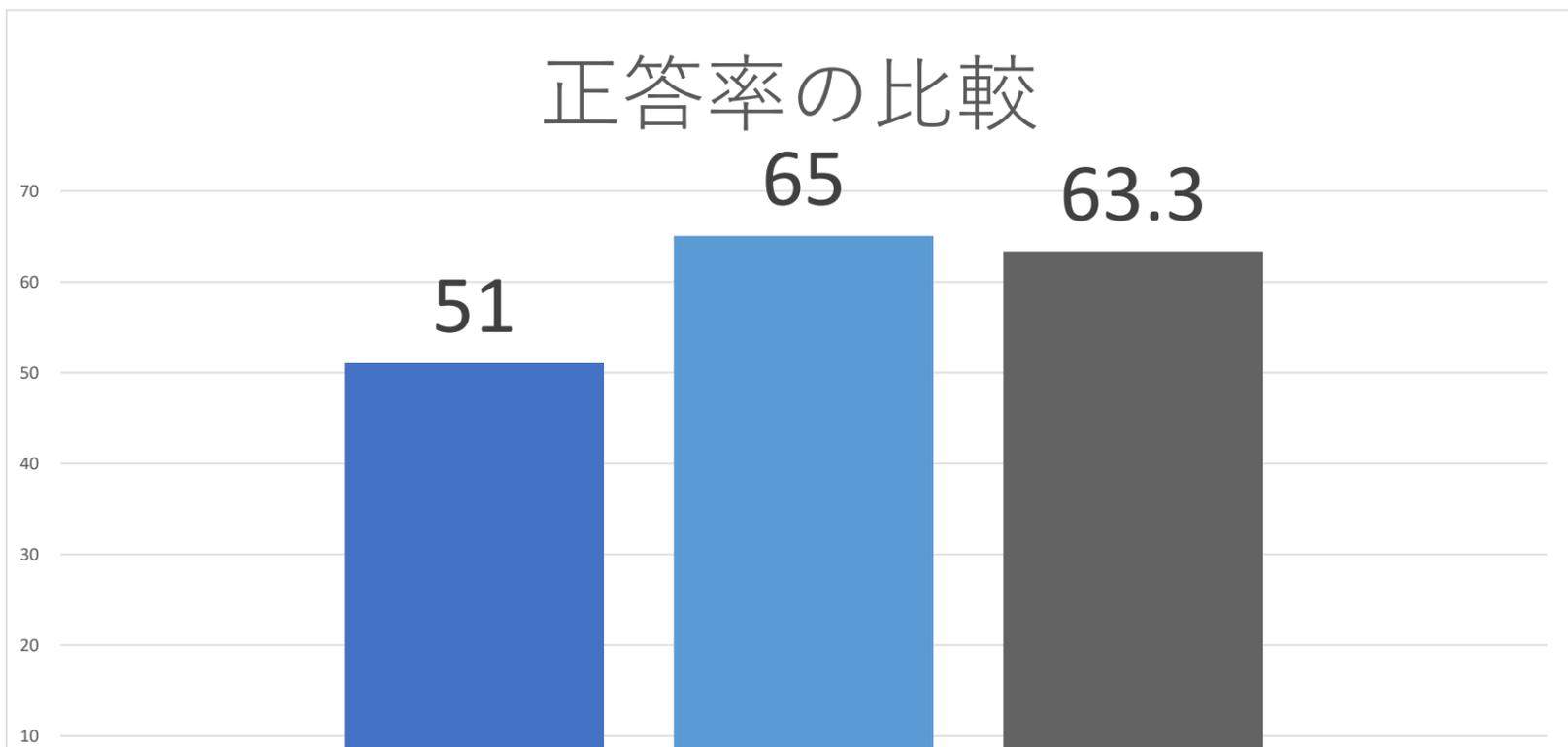
令和4年度全国学力・学習状況調査  
**問題別調査結果 [理科]**  
江戸川区立松本小学校一児童

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。  
※ただし、4月19日に調査を実施していない学校については、4月20日以降5月20日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

**集計結果**

対象児童数	江戸川区立松本小学校	東京都 (公立)	全国 (公立)
	36	92,293	965,761

分類	区分	対象 問題	平均正答率(%)			
			貴校	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		17	51	65	63.3	
学習指導要 領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	35.4	53.4	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	50.0	62.4	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	63.3	77.4	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	50.6	67.7	64.6
評価の観点	知識・技能	6	51.9	63.6	62.5	
	思考・判断・表現	11	51.3	66.5	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	58.6	69.4	66.8	
	短答式	3	50.9	67.0	66.2	
	記述式	3	25.9	49.6	47.3	





1 分析結果

3教科に共通している項目は、自分の考えや意見を自分の文章で表現する記述式の正答率が、東京都や全国と比べ大きく下回っていることであり、大

2 原因

授業構成において、児童の「考える時間」「対話を主とした交流活動」を意図的に計画していない点が考えられる。また、松小授業スタンダードの活

3 対策

(1) ICT機器の活用や、児童同士の距離の確保等の感染症対策を講じ、対話的・主体的な学びを深めるため、意見交流や自分の意見・感想を発表し活動を十分に設定し、記述式の問題や課題に取り組む能力を養う。

① ミライシード、チームスの活用

ア ミライシードのオクリンクやムーブノートを活用することで、友達同士が距離を確保したまま、意見交流を行う。

イ チームスでの課題機能を活用することで、児童の学習状況をリアルタイムで把握し、授業展開での児童の考えやまとめ、振り返りを把握

② 松小授業スタンダードの活用

取組			具体策
ア	主体的な学びを深める	導入 学習に対して児童の好奇心を喚起し、日常生活と関連付けた児童の「問い」を引き出せるよう、学習課題の提示をする。	・各単元の導入時に、児童に考えさせた学習課題を基に学習計画を立てる等、学習する内容を児童の疑問や問いに絡めて用意する。 ・主任教諭や主幹教諭に授業の進行内容を報告し、「松小授業スタンダード」を基にした授業構成を作成するための教材研究の時間を確保する。
イ	対話的な学びを深める	展開 学び合い（ペア・グループ・全体）の時間を確保する。	・授業展開時に、児童個人が課題に取り組む時間と、学び合い（ペア・グループ・全体）で課題に取り組む時間の両方を確保する。 ・学び合いの時間に話し合った内容や気付き・感想を学級全体に発表する時間を確保する。
ウ	より深い学びの実現を目指す	まとめ ・学んだことを自分の言葉でまとめる力を育てる時間を確保する。 ・子どもが自分で振り返ることができるノート指導を行う。	・オクリンク等のICTを活用し、自分のノートと友達のノートを見比べ感想や意見を伝え合う時間を確保する。 ・児童のノートやワークシートには板書をただ写させるのではなく、自分の意見や友達の意見等、学んだ内容を自分の言葉で書き表せるようにする。

(2) 今回の学力調査を受けた学年だけでなく、本校の全学年で、読解力と表現力を高めるための系統的な学習計画を立て、長期的・計画的な学力

① 4年生から6年生の「SDGs新聞」「SDGs探求ブック」「よむYOMUワークシート」への取組

② 全学年の「調べる学習コンクール」への取組

③ 「読書科ノート」の活用

④ 国語の「話すこと・聞くこと」の学習領域への取組として、全学年暗唱活動の指導

※ベーシックドリルの分析をもとに考えた取り組みも並行して行っていく。